

本事例の基礎データ

カテゴリ	文字入力（タイピング）に関する指導法		
学校種	高等学校	事例提供者	都立雪谷高等学校
学年	1 学年	教科等	情報科
単元名	技術文化の発展と知的財産権 他		
主な ICT 機器	デスクトップパソコン タブレット PC		
授業の概要	情報社会における法律や権利について学び、メディア・リテラシーを養う。 毎時間、タイピング練習を積み重ね、効率の良い文字の入力について学ぶ。		
「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け	基本的操作	STEP5	効率的に情報を入力できる（50 文字程度/1 分間）

本事例における教育の情報化について

【ポイント 1】	<p>コンピュータを効率よく使うための習慣付け</p> <p>毎時間キーボードに触れさせることにより、「指が覚えるためのレッスン」を行い、キーボード入力の基礎を養う。</p>
【ポイント 2】	<p>習熟度に応じた個別指導と時間を決めたメリハリのある練習</p> <p>基本配列の記憶を基本とし、習熟度に合わせたタイピングソフトによる練習を行う。確実な文章入力のコツを、反復して身に付ける。</p>
【ポイント 3】	<p>具体的な進度を数値で確認しながら、技術向上を意識させる</p> <p>タイピングソフトによる学習結果の記録を確認させ、個別に目標を立てさせ、技術向上を意識させる指導を行う。</p>

本単元（題材）における指導の流れ※

時間	●主な学習活動 ・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
1 ～ 3	<ul style="list-style-type: none"> ●【コンピュータ操作の基礎知識】 ・PCの基本的な操作について知る。 ・自身のタイピングスキルを確認する。 ・キー配置を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校での授業の有無など、PCに触れている時間に差があることを意識させながら、作業指示を行う。 ☆配置を覚えるために主体的に学習に取り組んでいる。【主体的に学習に取り組む態度】
4 ～ 7	<ul style="list-style-type: none"> ●【タイピングの基礎基本】 ・タイピングの基本姿勢を確認する。 ・ホームポジションから指の役割分担を意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○姿勢が与える健康への影響と、作業環境を整える意識をもたせながら作業指示を行う。 ☆視線をキーボードをではなく、ディスプレイに向けている。【知識・技能】
8 ～ 10	<ul style="list-style-type: none"> ●【入力結果による向上意識の定着】 ・スキルレベルに合わせた練習を行う。 ・タイピングソフトによる入力結果を確認し、目標を達成するための自己分析を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タイピングソフトの導入を行い、毎回の授業開始時に自主的に始められるよう指導する。 ☆段階的な目標を持ち、入力結果から自己分析を行うことができる。【思考・判断・表現】
14 ～ 17 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ●【入力実習】 ・入力、変換、確定のコツを知り、入力ミスや誤変換を減らす方法を考える。 ・テキストを見ながら、入力する姿勢や環境の整え方を知る。 ・考察などを考えながら入力し、文章の推敲を行うための書き方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実演を織り交ぜながら、机間巡回時に入力方法の指導を行う。 ○決められた時間内に作業を終わらせることができるように、計画性をもたせる。 ☆自分の考えをまとめ、効率良く文章作成を行うことができる。【知識・技能】

※毎時間導入時に取り組んでいる内容

本時の流れ※

段階	●主な学習活動・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
導入	<p>●本時の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人1台端末から、Microsoft Teams を起動する。 ・ClassNotebook にアクセスし、配布された課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業開始までに、端末を利用できない生徒への対応を行う。 (充電不足・端末不携帯は教室備付けのデスクトップ PC を利用する)
展開・まとめ	<p>●教科の学習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決められた時間内でテキストを入力する。 ・指定されたフォントサイズに変更する。 ・文頭のスペースや段落の挿入を確認しながら作業する。 <p>・作業完了の報告を行い、終了させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入力が終了したら、タブレット PC 本体をキーボードから取り外し、教員に入力内容を確認してもらう。 ・保存の方法を確認し、アプリケーションを終了させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○範囲選択、フォントサイズの調整の作業が可能か、教わった技術を使うことができるかを確認する。 ☆条件を判断し、必要に応じて、文頭のスペースや段落の挿入を行いながら文章を入力することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ○報告時にタブレット PC の分離を行わせ、本体の扱い方について指導する。 ☆利用しているアプリケーションの特徴を捉え、データの保存方法を理解している。

※毎時間、導入時にこのような学習に取り組む。

授業の実際

【ポイント1】 ●毎時間の積み重ね



3年間を通して ICT を活用した授業を多く行っていることから、生徒が PC 活用する機会も多い。1 年生必修の授業の中で、毎時キーボードに触れる機会を設け、入力に慣れるための環境を整え、PC を用いて考えをまとめるための情報を入力する方法を養っている。

【ポイント2】 ●一人1台タブレットPCの活用



Microsoft Teams と BYOD 端末を活用し、連絡、課題の配信、提出、共同作業をいつでもどこでも行える環境を整えている。

【ポイント3】 ●活用のための基礎基本の習得



1 学年「情報」だけでなく、2 学年でも朝学習の時間を利用した継続的なタイピングスキル向上を行っている。PC スキルの基礎基本を習得させることで、他教科での活用が可能になる。

今後に向けて

- ICT を活用した授業において、生徒が PC の扱いを理解することは必須である。全ての教科において、生徒が効率よく作業を行うための情報活用能力を、できる限り短時間で習得できるように、組織的に進めていく。